



日赤ふくおか

No.
71

平成29年5月9日発行

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

CONTENTS

- 2..... ふくおかの赤十字News
- 3..... ふくおか's Topic
- 4..... 赤十字インフォメーション
- 5..... We Are ボランティア、青少年赤十字活動紹介
- 6..... 講習お申し込みのご案内

発行所

日本赤十字社福岡県支部
〒815-8503 福岡市南区大楠3-1-1
TEL:092-523-1171 <http://www.fukuoka.jrc.or.jp/>

5月は赤十字運動月間です



この同じ空の下、

人は手と手を取り合って生きている。

人間は決してひとりじゃない。

だからこそ強くなれるのだと、私たちは信じています。

活動資金にご協力をお願いします



お電話で

092-523-1171



パソコンから

ホームページ

日本赤十字社 福岡県支部

検索

ふくおかの赤十字 News

1月 大切ないのちを未来につなぐ ～パパ・ママ応援講座～



福岡赤十字病院にて「パパ・ママ応援講座」と題した幼児安全法を開催し、5日間で妊産婦とご家族51人が受講されました。

子どもは、一生の中で最も事故を起こしやすく、特に乳児の窒息事故や乳幼児突然死症候群による心停止が多い状況にあります。幼児安全法指導員による事故予防の説明後、もしもの時に大切ないのちを救う行動がとれるよう、乳児の人形を使って心肺蘇生や気道異物除去の実技体験を行っていただきました。参加者からは、乳幼児の事故や病気に関する質問や相談もあり、「夫婦で参加できてよかった」、「成人と違う胸骨圧迫の方法など丁寧に教えてもらえてわかりやすかった」、「環境を整えて事故が起こらないよう気をつけたい」などのお声をいただきました。



人形を使った心肺蘇生や気道異物除去の方法を説明する指導員

2月 地域で支えあうために ～奉仕団研修会で認知症講座～



職員を相手にロールプレイングをする参加者

久留米赤十字会館とオーヴァルホール（宗像）にて開催した赤十字看護（介護）奉仕団研修会において、認知症講座を行いました。同奉仕団は、日頃、福祉施設での活動、独居高齢者宅への声かけ訪問などを通して、赤十字と地域を結ぶ“かけ橋”として心のこもった奉仕活動に取り組んでいます。

講座では、物忘れなどの認知症の主な症状と相手の言葉に耳を傾けてゆっくりかかわるといった具体的な対応のポイントを学んだ後、職員を相手にロールプレイングを行いました。団員から「認知症は自分のこととして捉えることが大事。この病気を正しく理解し、相手の自尊心を傷つけない対応をしていきたい」との感想が聞かれました。

3月 『私たちは、忘れない。』 ～未来につなげるプロジェクト～

東日本大震災から6年目を迎えるこの時期に防災・減災に関するイベントを開催しました。本プロジェクトは過去の震災を忘れず、今なお復興へ歩みを進める方々を継続的に支援する目的で、昨年から全国の赤十字施設で実施されています。

福岡県支部では、震災経験者のメッセージパネルや、県内の赤十字関係者が熊本への復興応援メッセージを書いた写真を集めた旗などを展示したほか、地域における防災・減災活動や災害時に役立つ応急手当などを学ぶ講習会、県内の市区町村への「赤十字移動式かまど引渡式」を行いました。

「過去の震災被害を忘れることなく、未来に備えることで救えるいのちがある」その信念のもと、今後も「人間のいのちと健康、尊厳を守る」活動を続けていきます。



けがの応急手当を練習する講習受講者



赤十字移動式かまどの説明を受ける
県内市区町村の職員



312人、98枚の写真からなる
熊本への応援旗

ふくおか's Topic



防護服を着用した参加者

原子力災害に備える



デジタル個人線量計の
使用方法を学ぶ参加者



原子力災害時の救護活動計画
を発表する参加者



サーベイメータの使用
方法を確認する参加者

1月18日（水）、福岡県支部で「日本赤十字社第6ブロック原子力災害対応基礎研修会」を開催し、九州各県の赤十字病院や支部から、医師、看護師など36人が参加しました。

本研修会は、発災時に医療救護活動を行う救護班要員等が、放射線環境下での活動に、安全かつ安心して従事できるよう、放射線や緊急被ばく医療体制等にかかる基本的知識及び放射線防護資器材の使用方法を習得することを目的として開催されました。

参加者は、災害救護活動時の放射線防護の基礎知識や、デジタル個人線量計の使用、防護服の着脱方法、サーベイメータ（携帯用の放射線測定器）の使用などの研修を受けました。基礎知識を学んだ後は、各グループに分かれ、原子力災害が発生した場合を想定した救護班の活動内容について話し合い、出動時の備えや、被ばく線量を考慮した活動計画の策定などを行いました。

参加者から、「防護服の着脱は、汚染を防ぐために正しい知識が必要となるので、職員同士が協力しながら取り組むことが大切だと感じた」「九州でも原子力災害が起きる可能性があるの、今日学んだことを施設の職員とも共有し、万一の際に備えたい」といった感想が聞かれました。

救護班要員の準備品の一部をご紹介します

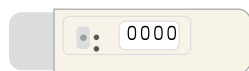
防護服セット

一体型防護服やゴーグル、マスク、手袋など。空気中に漂う放射性物質による汚染を防ぎます。



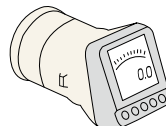
デジタル式個人線量計

個人の累積被ばく量を測定する機器。活動開始から終了まで肌身離さず着用し数値をチェックします。



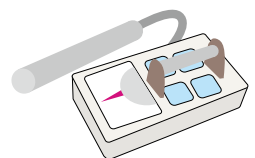
空間線量率測定用 サーベイメータ

空間の放射線量を測定する機器。放射線対応支援要員（診療放射線技師）が空間線量を測定し要員の活動を支援します。



身体汚染 スクリーニング用 GMサーベイメータ

身体表面の汚染具合を測定する機器。傷病者や要員の被ばく量を測定します。



赤十字 インフォメーション information

日本赤十字社は創立140周年を迎えます



「苦しんでいる人を救いたい」—この思いは、140年後の今も、そしてこれからも変わることなく、9つの事業を通して実践し続けていきます。

近年の気候変動に伴う自然災害の増加や長期化する紛争など人道支援ニーズは年々拡大しており、赤十字としてどう立ち向かっていくのが大きな課題となっています。

主な事業は、「国際活動」「災害救護活動」「医療事業」「看護師等の養成」「血液事業」「救急法等の講習」「赤十字ボランティアの育成」「青少年赤十字活動の推進」「社会福祉事業」の9つからなり、いずれも「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命にもとづいています。





We Are ボランティア



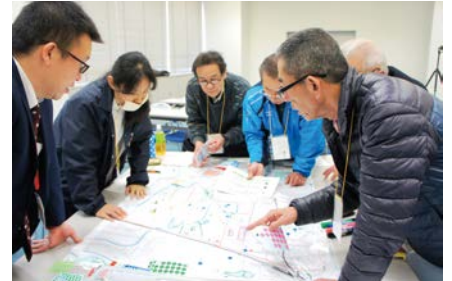
『自助』『共助』の力を地域に ～防災ボランティア基礎研修会を開催～

2月12日（日）、久留米赤十字会館にて赤十字セミナー推進に助力いただくボランティア指導者の養成を目的として防災ボランティア基礎研修会を開催しました。

過去の大規模災害において、外部からの支援が期待できない発災初期に重要な役割を果たしたのは、自分自身や家族、地域コミュニティなどの「自助」「共助」の力でした。

本研修会では主に、災害発生時に地域の応急対応にあたるリーダー層を育成することを目的に、災害への備えや災害図上訓練、応急手当のほか、災害エスノグラフィーを実施しました。災害エスノグラフィーとは、大規模災害の被災者の体験談を通じて、過去の災害の追体験をすることで、被災の具体的なイメージを理解するものです。参加者は追体験をしながら災害を自分の事として捉え、気づいたことなどをグループで話し合い発表しました。

日本赤十字社は平成29年度から将来の大規模災害を想定し、全国で「赤十字防災セミナー」を展開しています。セミナーを通じて、人々の防災に関する「知識」「意識」「技術」が向上し、「自助」「共助」の力を一層高めることができるよう支援していきます。



防災マップを作成する参加者



個人、地域でどう防災に取り組むかを発表



青少年赤十字活動紹介コーナー



福岡県青少年赤十字研究会を開催

2月20日（月）、吉塚合同庁舎において、福岡県教育委員会指導主事、各教育事務所指導主事、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の先生方、青少年赤十字賛助奉仕団や地域奉仕団の方、63名に参加いただき福岡県青少年赤十字研究会を開催しました。

今年度は、熊本地震により大きな被害を受けた益城町立益城中学校の松本正文校長先生においでいただき、「『熊本地震』からの学び」と題して講話をしていただきました。地震を体験され、地域と共に復興に取り組まれる先生のお話に、参加者はそれぞれの立場でとてもたくさんの学びを得ることができました。また、防災教育プログラムの検討委員を務められた下関市立関西小学校の厚東政人校長先生に、「命を守る防災教育のすすめ」と題して講話をしていただき、防災教育プログラムの内容や具体的な活用方法についてのお話の後、先生方にグループワークをしていただきました。和やかな中にも真剣に取り組まれる姿に今後ますます防災教育が広がることを感じる研究会になりました。



開会式 河野事務局長の挨拶



益城中学校 松本校長先生の講話



関西小学校 厚東校長先生の講話



参加者によるグループワーク

知って得する

赤十字講習会を受講しませんか？

救急法

いのちの輪をつなぐために



●救急法(基礎講習)

教材費:1,500円 受講条件:満15歳以上の方 定員:各日30人

開催日	時間	会場	受付期間
7/9(日)	10:00~16:00	八女市社会福祉協議会	5/22(月)~6/23(金)
7/21(金)	10:00~16:00	福岡県支部	6/5(月)~7/7(金)
8/8(火)	10:00~16:00	福岡県支部	6/19(月)~7/21(金)
10/4(水)	10:00~16:00	久留米赤十字会館	8/21(月)~9/22(金)
10/27(金)	10:00~16:00	立岩公民館(飯塚市)	9/11(月)~10/13(金)
11/1(水)	13:00~18:00	福岡県支部	9/11(月)~10/13(金)

●救急法(救急員養成講習)

教材費:1,700円 受講条件:満15歳以上の方 定員:30人

開催日	時間	会場	受付期間
7/22(土)・23(日)	9:00~17:00	福岡県支部	6/5(月)~7/7(金)
8/9(水)・10(木)	9:00~17:00	福岡県支部	6/19(月)~7/21(金)
10/5(木)・6(金)	9:00~17:00	久留米赤十字会館	8/21(月)~9/22(金)
10/28(土)・29(日)	9:00~17:00	立岩公民館(飯塚市)	9/11(月)~10/13(金)

幼児安全法

思いがけない子どもの事故やけがに備えたい



●幼児安全法(支援員養成講習)

教材費:1,800円 受講条件:満15歳以上 定員:20人

開催日	時間	会場	受付期間
5/26(金)・27(土)	9:00~17:00	福岡県支部	4/3(月)~5/12(金)
9/28(木)・29(金)		久留米赤十字会館	7/3(月)~9/1(金)

●幼児安全法(短期講習)

教材費:※1:無料、※2:150円、※3:400円 受講条件:満15歳以上 定員:各20人

開催日	時間	会場	受付期間
5/25(木)※1	10:00~12:00	柳川総合保健福祉センター水の郷	4/3(月)~5/12(金)
5/25(木)※1	13:00~15:00		
7/4(火)※2	10:00~12:00	北九州市八幡西区生涯学習総合センター	5/8(月)~6/23(金)
7/4(火)※3	13:00~15:00		

5/25(木)と7/4(火) 10:00~12:00は、こどもに起こりやすい事故の予防と手当、けがの手当
5/25(木)と7/4(火) 13:00~15:00は、乳幼児の心肺蘇生 AEDの取り扱い

健康生活支援講習

すこやかな高齢期を迎えるために



●健康生活支援講習

教材費:900円 受講条件:満15歳以上 定員:20人

開催日	時間	会場	受付期間
9/20(水)・22(金)・26(火)	10:00~15:00	嘉麻赤十字病院	7/3(月)~9/1(金)
1/11(木)・12(金)・15(月)	10:00~15:00	福岡県支部	11/6(月)~12/22(金)

※最終日は、検定希望者のみ終了時間が16:00になります。

水上安全法

水の事故でも慌てない



●水上安全法(救助員養成講習Ⅰ)

教材費:700円 受講条件:満15歳以上で救急法基礎講習修了者

開催日	時間	会場	受付期間	定員
★6/14(水)	10:00~16:00	久留米赤十字会館	4/24(月)~5/26(金)	40人
6/15(木)~17(土)	9:00~17:00			
★6/20(火)	10:00~16:00	福岡県支部	4/24(月)~6/2(金)	50人
6/21(水)~23(金)	9:00~17:00	福岡県立総合プール		
★8/31(木)	10:00~16:00	文化記念プール(小倉南区)	7/18(火)~8/18(金)	40人
9/1(金)~3(日)	9:00~17:00			

★は基礎講習です。未受講の方は併せて受講ください。

●水上安全法(救助員養成講習Ⅱ)

教材費:300円 受講条件:3年以内に水上安全法救助員Ⅰの資格取得者

開催日	時間	会場	受付期間	定員
7/1(土)・2(日)	9:00~17:00	津屋崎海水浴場(福津市)	5/15(月)~6/16(金)	20人

【お申し込み方法】

講習会のお申し込み方法は、以下の3通りです。詳細は、福岡県支部ホームページ (<http://www.fukuoka.jrc.or.jp/>) をご確認ください。

①インターネットで ②はがきで ③FAXで



【お問い合わせ、お申し込み】

日本赤十字社福岡県支部 事業課 講習担当

〒815-8503

福岡市南区大楠3丁目1番1号

T E L : 092-523-1172

F A X : 092-521-2552

E -mail: koushuu@fukuoka.jrc.or.jp